

# 漢方の臨床

## Journal of Kampo Medicine

Published by The Association of East-Asian Medicine

# 1

## 第70巻・第1号

## 2023

### 〔主な内容〕

令和5年(2023) 新年のことば	9
〔口絵〕 目でみる漢方史料館(433)	小曾戸洋他 2
三叉神経領域の初期単純疱疹と帯状疱疹に 五苓散が有効であった4症例	竹田 真他 95
芍婦膠艾湯が有効であった加齢黄斑変性の1例	山本 昇伯 99
通明利気湯の治験例	山崎 正寿 105
新 女子医大雑話(9)	麻生悠子他 109
医師・薬剤師リレー治験録(210)	田中まち子他 115
飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より <sup>⑬</sup>	原田直之他 121
東京医大漢方医学センターだより(20)	班目有加他 127
漢方牛歩録(407)	中村 謙介 135
東洋堂経験余話(355)	松本 一男 138
経絡上の圧痛点検索を加味した馬場辰二の腹診についての検討	徳留 一博 141
私の「四つん這い歩行」という言葉との接触	王 瑞雲 147
新刊図書紹介 『中国伝統医学 名医・名著小百科』	緒方 千秋 150

飯塚病院 月曜カンファレンス 臨床経験報告会より〔通算<sup>⑬</sup>〕

『最近の治験・知見・事件!』 パートⅡ<sup>⑭</sup>

## COVID-19 罹患後の遷延する腰痛に

### 五苓散末自家製剤が奏効した1症例

○ 原田直之・中尾桂子・吉永 亮  
井上博喜・矢野博美・田原英一

したので報告する。

はじめに

COVID-19の罹患後症状は多彩で、疲労・倦怠感、関節・筋肉痛、咳、痰、記憶障害など多岐に渡り、その持続期間も様々である。内科的に検査異常がないことが多く対症療法が施されるものの、改善に乏しく長期化し治療に難渋することが多いため、漢方治療の良い適応であると考えられる。当院でも上記の症状を訴えての受診は多く、種々の方剤による治療を試みている。今回は、COVID-19罹患後に、腰痛を中心とした多関節痛が出現し通学が困難となった若年女性に五苓散末自家製剤が奏効した症例を経験

### 症 例

【症 例】 13歳、女性

【主 訴】 腰痛

【既往歴】 起立性調節障害、ストレスによる呼吸困難感

【内 服】 抑肝散加陳皮半夏エキス、桂枝加竜骨牡蛎湯エキス

【アレルギー歴】 なし

【現病歴】 X-1年5月頃に家庭内の問題で、発作的な息苦しさを感じるようになった。10月から、呼吸困難感に加

えて頭痛、嘔気も出現して中学校へ登校できなくなったことから、近医小児科を経て当院小児科を受診した。学校ではさほどストレスはなく通学しがついていた。呼吸困難感については家庭環境の問題が原因と考えられ、症状緩和の目的に同月当科へ紹介となった。諸々の処方を経て、X年2月頃には気逆と肝気鬱結を目標として、桂枝加竜骨牡蛎湯エキスと抑肝散加陳皮半夏エキスを併用することで症状が治まっていた。同年3月末、兄がCOVID-19に罹患して、間もなく自身も罹患した。発熱、倦怠感、咽頭痛があったが、数日で軽快した。しかし、その後から強い腰痛が出現し起居が困難で登校できなくなった。4月中旬の当科再診時に経緯を訴え、漢方治療を希望した。

【入院時の西洋医学的所見】 身長154・5 cm、体重50・2 kg、BMI 21・0、体温37・3℃（自身の平熱）、血圧112/70 mmHg、脈拍100/分不整なし。理学所見に明らかな異常所見なし。血液検査（血算、一般生化学）で明らかな異常所見なし。

### 【漢方医学的所見】

〔自覚症状〕 食欲やや不良、軽度の便秘症、少し寒い、口渴あり、やや多い発汗、排尿は正常範囲内、入眠困難、易驚性、眼精疲労、高度の月経痛、身重感、頭痛・頭重感、立ちくらみ。

〔他覚所見〕 脈候は沈、小、緊、洪。舌候は淡紅色、湿潤した薄い白黄苔、腫大あり、齒痕あり。腹候は腹力中等度、心下の冷感あり、腹直筋鬱急あり、心下悸あり、臍上悸あり、両臍傍圧痛あり、回盲部圧痛あり、S状結腸部圧痛あり。

### 経 過

ウイルス感染後の腰部を中心とした多関節痛に対し、軽度の冷え、発汗傾向なども目標として桂枝加苓朮湯エキス2包/日を処方した。その際、常用している桂枝加竜骨牡蛎湯エキス2包/日、抑肝散加陳皮半夏エキス2包/日と合わせると3剤となり、処方の方意が複雑となること、副作用の懸念もあることから、抑肝散加陳皮半夏エキスを中止した。

1週間後、関節痛は変わらないものの、体が温かくなつたと感じ、他覚的にも心下の冷感が消失した。しかし、抑肝散加陳皮半夏エキスを中止後、発作的な呼吸困難感が再発し、日常生活が困難なためどうしても再開してほしいとの希望があった。そこで、桂枝加苓朮附湯エキスを継続するとともに、やむなく抑肝散加陳皮半夏エキスを再開し、3剤内服とした。

3週間後、呼吸困難感は収束し、強い腰痛は変わらないが関節の疼痛が軽減した。同時に発汗の頻度と程度が増

した。そこで、腰下肢痛と発汗傾向を目標に、桂枝加苓朮附湯エキスを防己黃耆湯エキス2包/日へ転方した。

7週間後、下半身の冷えと腰部を含めた多関節痛が増悪した。そこで、防己黃耆湯エキスを桂枝加苓朮附湯エキス2包/日へ戻して加工ブシ末15g/日を加えた。9週間後、体はやや温かく足関節痛は和らいだが、やはり腰痛は改善しなかった。裏寒の有無を確認するため電気温鍼を実施したところ、小倉の原法<sup>2d</sup>に相当する5チャンネルの温度で3分経過後に暑さを感じた。10分未満であったことから、現行の附子末の量で温補の効果が有り裏寒はないと判断した。その他の所見として、口渴、やや発汗する、立ちくらみ、身重感、頭痛・頭重感などの自覚症状、舌腫大と歯痕、腹部の服の痕などの他覚所見と、水毒を示唆する所見が多いことから、桂枝加苓朮附湯エキスを五苓散末（自家製剤）4.8g/日へと転方して、加工ブシ末15g/日は継続した。

11週間後、尿量がやや増えて腰痛は6割程度へ軽減した。足関節痛も消失し、発汗傾向もみられなかった。15週間後には腰痛が4割以下へ軽減し、学校へ登校できるようになった。その後、悪天候時に腰痛が軽度増悪するものの、平素は痛みを感じずに過ごせるようになったことから、抑肝散加陳皮半夏と桂枝加竜骨牡蛎湯とも併せて内服を継続している。

### ▼ちよつとブレイク

親バカ日記です。1歳半になる娘は、皮膚が弱く虫に刺されると腫れたり化膿したりで1カ月は治りませんでした。そこで、桂枝加黃耆湯エキスを少量ずつ飲ませていきます。甘みがあつて気に入っているようで、「おくすり♪ おくすり♪ おいしいねえ〜」と喜んで飲んでいきます。初夏には蚊に悩まされましたが、内服を続けたおかげで秋口には治りが早くなり、怪我や湿疹もすぐ治るようになりました。子供の皮膚病には大変良いですね。

### 考 察

COVID-19の罹患後に遷延あるいは新規に生じる症状は、WHOによりpost COVID-19 conditionとして定義され、本邦でも新型コロナウイルス感染症の罹患後症状と呼称して、厚生労働省からその診療の手引きと、罹患後症状のマネジメントが公表されている<sup>1)</sup>。それによると、18報告の系統的レビューでは倦怠感、息切れ、関節痛、抑うつ、不安、

## 東京医大漢方医学センターだより (20)

最近のカルテから

## 女神散により薬物性肝障害ならびに

## 薬剤性肺障害をきたした1例

○<sup>1)</sup>班目有加・<sup>2)</sup>矢数芳英・<sup>3)</sup>一木昭人・<sup>8)</sup>平澤一浩<sup>2)</sup><sup>5)</sup>渡邊秀裕・<sup>2)</sup><sup>6)</sup>伊藤正裕・<sup>2)</sup><sup>7)</sup>及川哲郎

## はじめに

近年では漢方薬による副作用はしばしば報告されている。実臨床では頻度の高いものだけでなく比較的まれな副作用にも遭遇する場合がある。今回、女神散による薬物性肝障害と薬剤性肺障害を合併した症例を経験したので報告する。

(注) 本稿では、薬「物」性肝障害、薬「剤」性肺障害という用語を選択した。従来より消化器領域では「薬物性肝障害」という言葉が用いられている一方で、呼吸器領域では「薬剤性肺障害」という言葉が一般的であるため、あえて文字の統一(物or剤)を

図らなかった。また、過去の論文では「間質性肺炎」などの記載が多く用いられており、本稿の考察では原文の記載を尊重した。

## 症 例

【症 例】 51歳、女性

【主 訴】 ホットフラッシュ(多汗、のぼせ)、不眠

【既往歴】 多発子宮筋腫、喘息、青魚アレルギー

【現病歴】 2年前からホットフラッシュがあり、上半身の

汗が強く、夜間も3、4回汗で目覚めるようになった。

HRT(ホルモン補充療法)はテープかぶれで中断となつ

ため漢方治療を希望された。

【西洋医学所見】 154 cm、45 kg、血圧正常。経膈超音波診断法で多発子宮筋腫あり。

【漢方医学的所見】 体格は痩せ型。食欲普通、胃もたれしやすい。便通1日1回。下痢と便秘を繰り返す。もともと冷え性だがここ数年は暑がり。不眠あり、寝つきが悪く、汗で目が覚める。夜間尿2回。ほてりは上半身が中心で特に頭部に強い。汗は着替えが必要なほど。口乾(+)、のどのつかえ(+)

腹診…腹力中等度、胃内停水(+)、右下腹部に臍傍圧痛点(+)

舌診…淡紅、薄白苔、齒痕(+)

脈診…沈弱

【経過】 桂枝茯苓丸に六味丸の併用を基本として様々な処方を試みたが、発汗に対して十分な効果を得られなかった。その後、娘が鬱を発症したという情報から氣滯・氣逆を考慮し、処方変更。ツムラ女神散エキス顆粒7.5 g/日分3を開始した。

14日後より発熱、呼吸困難感を自覚したため近医受診。経皮的動脈血酸素飽和度(以下、SpO<sub>2</sub>)は安静時95%、会話時90~93%と明らかに低酸素血症を認め、CT上ではびまん性のスリガラス陰影(図1上段)を認

めたため、間質性肺炎の診断にて他院入院となる。入院時血液検査所見を表1に記す。

【CT所見】 びまん性のスリガラス影、肺底部の索状影、肺野全体の縮小を認めることから、薬剤性肺障害(間質性肺炎)として矛盾なし。

【肺炎経過】 呼吸困難で漢方薬は内服できずに中止となっていた。

中止後、入院するも特に治療は施行されず自然軽快し、3日後に退院となった。その後、外来にて経過観察を行い、4カ月後の胸部レントゲン(図1)、CT(図2)で肺炎像は改善されていた。

【血液検査】 また同時に入院時の血液検査ではトランスアミンナーゼ上昇などを認めており、本症例は薬物性肝障害も併発していたと考えられた。こちらも内服中断にて自然軽快している(表2)。

## 考 察

### 1. 薬剤性肺障害について

漢方薬による副作用としてよく知られているものとして小柴胡湯による薬剤性肺障害、薬物性肝障害があげられる。厚生労働省の報告によると、1994年から1996年2月に88人が間質性肺炎を発症し、このうち10人が死亡